
星の下の世界

りりいー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星の下の世界

【Nコード】

N4697D

【作者名】

りりいー

【あらすじ】

どこにでもいるような小学5年生がある日異世界に飛ばされて・・

序章

ボクは

深い

深い

闇から生まれた。

「アキラ、早くしろよっ」

『まっ待ってよ、雅人くん!』

「休み時間終わっちまうぞっ」

『うつん・・・』

ボクの名前はアキラ、小学5年生。

雅人は、ボクの親友。

今は、給食当番の仕事が終わって、サッカーをしに校庭に急いで向かってるところだ。

雅人は階段を10段目から跳んでいった
ボクにはそれさえ凄いと感じた。

雅人は、運動神経もいいし頭もさえる！

それに比べてボクは、運動もそこそこで勉強もそこそこできるだけの凡人。

だから雅人は大親友であり、ボクの憧れの人。

「おー雅人とアキラ、こっちこっち！　今0対2で負けてるんだ、雅人なんとかしてくれ！」

「任せろ！」

雅人はそう言って休み時間が終わるころには3対2で楽々と逆転させたのだ。

その日の放課後、ボクはいつものように雅人と帰った。

僕達の日課は帰りに公園によることなんだ。

鉄棒やジャングルジムで遊んだり、バスケットボールをしたりなんかする。

この日はバスケをしたあと休憩がてらにブランコに座っていた。

すると雅人は急に

「俺、旅に出たい……この世界は俺には小さいと思う。異世界に行つて、剣とか銃でモンスターをぶっ倒すんだ！異世界いけないかなあー」

「雅人くんは強いもんねっ、きつとそーゆう世界に行つても上手くやれそう（笑）」

「何いつてんだ？　お前も一緒に決まってるだろ！」

「えっボクも？……」

「俺達親友だろ！　どこに行くにも俺とアキラは一緒だ！」

「ありがとう。でもきつと、ボクなんの役にも立たないよ？」

「お前なあ… お前はもつと自分に自信もて！」

『うん… そうだね… 』

暗くなってきたのでバイバイをして、ボクは自宅に向かった。

その途中黒猫がアキラの前を横切った。

（なんだか不吉だなあー）

そう思いながらアキラは自宅に急いだ。

アキラの家は都内に一軒家をもっている、両親共に働いていて父は外科医、母は食品衛生検査をする人らしい。だから、お金は沢山もっている。ただ、アキラが学校から帰ってきててもまだ2人ともいないのでいつも1人なのだ。

『ただいまあー… 』

・
・
・

（たまには「おかえり」ってってもらいたいな… ）

アキラがテレビゲームをしていると

ピンポーン

チャイム音になった。

『はい』

玄関モニターをみると、誰も写っていない・・・

『いたずらかな?・・・』

するとまた

ピンポーン

『なんだろう・・・』

アキラは勇気をだして玄関に行きドアを開けてみると、そこには黒猫がちよこんと座っていた。

『お前さっきの黒猫? どうしたの?』

「「やっと思つた……もう1人のボク。」」

第1章

目が覚めると、そこが何処だかわかるのに時間がかかった。

水の中のようなが呼吸ができる。水はとても透き通っていて魚達が泳いでいた。遥か上空に太陽の光が水中に差し込んできていてとてもキレイだ。アキラは上に行こうと泳ぎ始めた。

水面にでるとそこはどうやら湖のようだった。

湖のまわりは野原が広がりその先には森が見える。

（此処はどこ？なんでこんなところにボクはいるんだろう？水の中でも呼吸できてるし・・・ってかなんで裸？さっきまで家にいたのに・・・）

けれどもアキラは不思議と不安はなかった。ただ裸で外を歩くのに落ち着かなかった。

（・・・これ夢か！！いつ寝ちゃったんだろう・・・）

とりあえずアキラは湖からでて森にはいつてみた。

森にも木々の青く生い茂った葉と太陽でできた木漏れ日が目の前に緑色のオーロラを作りだしている。鳥たちの囀りもどこからか聞こえてくる・・・

しばらく森を歩くと道にでた、すると向こうから人の声が聞こえてくる、

声の方向から馬車がやってくるのが見えてきた。

（本物の馬車なんて初めみた！！まあー夢だけど（笑））

アキラが初めてみた馬車に感激していると、馬車はアキラの前で止

まった。

「おい、ベルセースどうした？」

「それが、なにやら馬が進もうとしないのですよ・・・」

「なんだと？」

馬車から出てきたのは、がっしりとした体格の男だった。
その男は馬車から降りるとすぐにアキラに気がついた。

「お前、こんな森の中でしかも裸でなにをやってる？」

『ぼ・・・ボクは・・・ってこれ夢ですよね？（笑）』

「なにを言っている、お前寝ぼけてるのか？」

『えっ・・・いやぁ・・・』

「何処から来た？」

（どこからって・・・）

『高円寺？』

「コウエンジ？ 知らぬな、よほど遠くから来たのだな・・・お前
これからどこに行く？ もし時間があれば私の城でお前のそのコウエ
ンジというところの話を聞かせてはくれないか？」

「ベルセ様、いくらお話が好きでもこんな身の上もわからぬ者を城
へとつれていくなんていけません！」

「いいではないか、もしものの時の準備はきちんとしてあるのだから。

「どうだ、来てくれるか？」

『はぁ・・・別にいいですけど・・・』

「そうか！そうか！なら早く城にいこう」

そう言うとはベルセというおじさんはボクにコートと布を渡してくれた。

（おじさん強引だなー・・・でもいい人）

「まだ、お前の名前を覚えてもらってないぞ？」

『あつ・・・柊 アキラです。』

「ヒイラギ アキラか・・・私はターバイの国王、ベルセだ！」

『えっ王様？』

（王様ってよりその体格部隊長でしょ？笑）

「ほら私の城が見えてきたぞ。」

窓の外をのぞいてみるといつしか森ではなく町並みが見え向こうに大きな城が見える。

城に近づくにつれてその大きさに唖然とした。

大きな門に、とても頑丈そうな城塞と沢山の兵士たち。

『すごい・・・』

「こんなものまだゼウスの世界ではたいしたことないぞ。」

『ゼウス?・・・って神様のゼウス?』

「何をいつてる! ゼウスはこの星の名前ではないか。」

『星の名前ってここ地球じゃん!』

「チキユウ? また知らない名前がでてきたな。ますますお前の話が楽しみだ。」

(話しかみ合ってないよ・・・それにしても夢にしては設定細かいなあ・・・まあ面白そうだしいいか。ボクもせめて夢の中だけでも雅人みたいに冒険してみよう)

城塞の中に入り馬車を降りると兵士やメイドがみんなベルセ王に深いお辞儀をした。そして2人の兵士が王の両脇にすばやくついた。
(本当に王様なんだ・・・)

「アキラこつちだ。」

『あっはい!』

ベルセ王についていくと城の中はとて広い廊下で奥まで繋がっていた。その廊下にはいくつもの重そうな扉がある。その中の1つの前で王が止まると、2人兵士が扉を開け王はさっさと部屋の奥に入

っていつてしまった。

「アキラ何をしている？早くはいらんか。」

『あっはい！』

「お前はいい歳してもっとしっかりした返事ができないのか？」

『いい歳してってボクまだ１１歳だけど・・・』

「まだ寝ぼけてるのか？お前のような体格で１１歳はありえないだろう。それとも王である私をからかっているのか？」

『からかうなんてそんなつもりはないですよ！・・・本当に１１歳ですもん・・・』

「まあーいい、風呂を用意した。ずっと裸だったのだからきれいにしておくと体を温めるよ。お前に合う服も用意しておいてやろう。」

『・・・ありがとうございます。』

（お風呂は助かるゝ森歩いたからよこれちゃったし。）

その部屋にはものすごいジャグジーの泡風呂があった。アキラは目を輝かせて泡風呂に飛び込んだ。

「やばいきもちいゝ これ泳げるじゃん」

体もきれいになったしすっかり温まったので、用意してくれた洋服に着替えた。それは黒いスーツだった。ふと目の前の姿をみてア

キラは驚いた。

『・・・・・・・・誰これ。』

それは自分の知っている柊 アキラではなかった、姿見に立っている人物は、身長185センチぐらいの整った顔を持っている18歳ぐらいの好青年だった。

『これ、ボク？』

用意してもらったスーツが妙に鏡に映った青年に似合っていますます整った顔を強調していた。

『ボクすごい成長した？ ってかかこいい・・・・夢だからってここまで変えなくてもいいのに。 あっ、だから王様いい歳してっていったのか！』

扉を出て廊下にでると1人の兵士が立って待っていた。

「アキラ様、王がこちらでお待ちです。」

『あっはい』

（じゃなくてっ）

『はいっ！！』

第1章（後書き）

第1章最後まで読んでくださってありがとうございます。

初めて小説を書いて見たので、文章が上手くまとまっていなかったり、漢字が苦手なの間違っているかもしれませんが；；

こうした方がいいなど意見があつたらお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4697d/>

星の下の世界

2011年1月16日01時20分発行